

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873100154		
法人名	有限会社 弘祐会		
事業所名	グループホームこうゆう庵		
所在地	西条市丹原町寺尾甲3番地9 (電話) 0898-76-6461		
管理者	天崎 るみ		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 2 月 19 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 25 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 19 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 8 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 16 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護 1	6 名	要介護 2	4 名
要介護 3	5 名	要介護 4	2 名
要介護 5	名	要支援 2	1 名
年齢	平均 82 歳	最低 70 歳	最高 91 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山並みを背景に梅やイチジクの畑が点在する閑静な場所に建つホームは、平屋造りで2ユニットを有している。広々とした居間の天窓からはやわらかい光が差し込み、ほっとできる空間をつくりだしている。利用者一人ひとりの表情は明るく、落ち着いており、楽しい日々を過ごしている様子がうかがえる。運営者兼管理者の住居が敷地内にあり、運営者の小学生になる子供々ホームに溶け込んで生活をしており、職員は連携が密に取れ、夜間を含め常時安心してケアにあたる事ができている。地域にも溶け込み、様々な行事を通して交流を深めている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

改善計画シートは作成していないが、できる項目から具体的に改善に活かしている。職員個々の取り組みを、しっかりとしたレポートにまとめることで、ホーム全体としてのケアの質の向上に繋げていくことが望ましい。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

言葉が難しかったり、項目の意味がくみ取り難いものもあるが、全員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

行事の計画や報告を中心に話し合いを行っている。様々な立場の方に参加して欲しいと努力しているが、参加者が少なくなっている。地域生活をより豊かにするために、地区長・民生委員・婦人会等、地域のキーパーソンに参加してもらうよう更なる工夫と熱意が求められる。介護保険関係の窓口とは常に連携している。介護相談員の来訪が毎月あるので、相談窓口になってもらっている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

最低でも月1回は話し合いの機会をもっており、気兼ねなく話せる雰囲気づくりに努めている。ホーム便りのみでなく、担当者からの手紙でも月に1回報告している。運営推進会議のメンバーとして家族にも参加してもらい、意見を出してもらっている。年1回アンケートを実施して意見を聞いている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

地域に福祉関係の施設が少ないため、地域からは好意的に受け入れられている。夏の盆踊り会には地区会や婦人会、子ども会にも参加してもらい、地域の行事のようになっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	有限会社 弘祐会 グループホームこうゆう庵
(ユニット名)	こうゆう庵 I
記入者(管理者)	
氏名	天崎 るみ
評価完了日	平成 19 年 11 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 前回の外部評価のアドバイスを基に、管理者が中心となり職員間で話し合い、よりわかりやすい明確な理念を再検討した。	※	職員間で再確認できる機会をつくっていききたい。
			(外部評価) 安心して生きがいを持って生活できるよう、まごころのこもった質の高いサービスを提供していくという理念を掲げているが、地域との関係づくりに関しての取り組みを反映したものにはなっていない。	※	職員全員で話し合いを重ね、地域や利用者のニーズを汲み上げながら、住み慣れた地域での安心した暮らしを支えていくことを念頭において理念を作り上げることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員一人一人が理念についてかみくだいて理解しているが、個人の認識については差があり、十分とはいえない。日々のケアの中で具体的にいかせるよう、管理者が全職員に話している。	※	新しい職員についても資料として配布し、職員全体で忘れないようにする取り組みを考えていきたい、
			(外部評価) 常に理念を思い起こしながら、日々の生活の中で一つひとつ理念が活かしているか振り返りを大切にしながら取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて、施設理念を資料の一部として配布している。会議の冒頭の挨拶でも管理者より挨拶の中でその都度説明しておりこんでいる。面会のご家族にも目にはいるように、各ユニットに掲示してある。	※	地域の方にも理念が浸透するような方法を検討したい。ホーム便りの配布も検討したが、個人情報の兼ね合いもあり、保留となっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 夕涼み会など大きな行事をきっかけに外部や近隣の方に来ていただける機会をつくるように努力している。利用者家族なども近隣の方が多く、面会に寄ってくださる。近隣からは野菜などの差し入れなどで気安く立ち寄ってくださっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運営推進会議にも来ていただき、意見交換する機会が増えたように思う。地域の活動にも参加し、地方祭などではだんじりのお接待でおでんや飲み物を提供し、休憩の場としても利用していただいている。 (外部評価) 地域に福祉関係の施設が少ないため、地域からは好意的に受け入れられている。夏の盆踊り会には地区会や婦人会、子ども会にも参加してもらい、地域の行事のようになっている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 婦人会・老人会・民生委員などが訪れた際には、認知症ケアの対応を話し合ったり、ボランティアや小学生の見学なども受け入れている。今年は地域の保育園の運動会のお花作りをご利用者が担当し、よろこばれたので継続していきたい。	※	地域の情報交換を密にしながら、施設全体で実施できる事を職員全体で話し合いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員一人一人が自己評価に取り組み、小さなことからできる範囲で改善に取り組んでいる。評価時には何か取り組める事がないかその都度検討している。 (外部評価) 言葉が難しかったり、項目の意味がくみ取り難いものもあるが、全員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。改善計画シートは作成していないが、できる項目から具体的に改善に取り組んでいる。	※	職員個々の取り組みを、改善に関するシートを作成することでまとめ、ホーム全体としてケアの質の向上に繋がっていくことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で、夕涼み会の反省や行事の報告など、ご家族などの声もお聞きし、サービス面における評価を行なっている。来年度に向けての行事予定を決めたり、日常の食事の献立おかずなどのヒントもいただくこともあり、サービス向上に一役かっている。		
			(外部評価) 行事の計画や報告を中心に話し合いを行っている。様々な立場の方に参加して欲しいと努力しているが、参加者が少なくなっている。	※	地域生活をさらに豊かにするために、地区長・民生委員・婦人会等、地域のキーパーソンにも参加してもらうよう更なる工夫が求められる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 不明な点やわからないときはその都度行政に相談し、助言をいただいている。		
			(外部評価) 介護保険関係の窓口とは常に連携している。介護相談員の来訪が毎月あるので、相談窓口になってもらっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度に関して職員は学習を行っており、具体的に制度の活用申し立てがあった場合には、担当の弁護士と相談し、活用推進に努める体制をとっている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、虐待については決して起こってはいけないように職員間にて注意している。管理者においても同一敷地内に居住していることもあり、夜勤などについても確認できる体制にある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者もしくは主任が担当となり、ゆっくり時間をかけて説明し、不安な面などがないか再度お聞きするようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者や職員が利用者と日頃から、挨拶などを中心にコミュニケーションをとることにより、気軽に声をかけ相談できやすい雰囲気づくりに努めている。また、アンケートの実施、相談箱の設置などご利用者の声も引き出す機会も設けている。	※	一月より介護相談員の方が行政より訪問予定である。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 健康状態や精神状態に異常や変化が見られる場合は、その都度家族に連絡をとり、報告するようにしている。月に1回、日常生活報告書、年4回ホームだよりを発行し、写真を多く取り入れることにより一目で暮らしぶりがわかるような工夫もおこなっている。 <hr/> (外部評価) 最低でも月1回は話し合いの機会をもっており、気兼ねなく話せる雰囲気づくりに努めている。ホーム便りのみでなく、担当者からの手紙も月1回は出して報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事への参加、運営推進会議への参加の時にご家族との意見交換を行なっている。特に5月に行なっているバーベキューでは食事をしながら穏やかな雰囲気での交流の機会となっている。玄関にも相談箱を置いて、ご家族の意見をいただけるようにしている。 <hr/> (外部評価) 家族にも運営推進会議に参加してもらい、意見を出してもらっている。また、年1回アンケートを実施して意見を聞いている。	※	アンケート調査を毎年12月に実施する予定。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 利用者の受け入れ、職員試用、ケア面などについて職員の意見を十分聞き取り反映させている。管理者は職員と日常的に話す機会を多く持つように努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の生活に合わせ、支障のないよう勤務ローテーションの調整に努めている。	※	職員の急な離職などによる対応・補充が難しい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職がある場合は、ダメージはなるべく少なくなるよう配慮している。 (外部評価) 異動はほとんどないが、ユニット間のバランスをとる為の異動等は稀にあり、その際は利用者にも何度も話して納得してもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の希望があれば、自由に研修を受ける事ができる。初任者研修やフォローアップ研修など、計画に従った研修への参加は無い。また研修後の報告書を作成し、ケアにいかす体制が不十分である。 (外部評価) 福祉の専門職として勉強してきた職員は少なく、県在宅介護研修センターなどの研修を受けることで育ってきている。	※ ※	研修計画を立て、全職員が研修に参加し、スキルアップできるような体制づくりを行いたい。研修結果についてもケアにいかせるように検討したい。 年齢、経験など様々な職員に適した研修を計画的に受講できるように配慮し、資格取得に向けた援助にも取り組みを期待する。全職員で認知症ケアの学習も重ね、根本的な理解を深めることでレベルアップにつなげることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は行っているが、人材不足のため勉強会などの参加は不十分である。 (外部評価) 管理者の個人的つながりを基に、交流により具体的な情報交換をすることで、サービスの質の向上につなげている。	※	人材を充分確保できるよう働きかけ、勉強会などに参加できるようにしたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者を含め、職員がお互い話し合うことでストレス解消に努めている。改善のためユニット間での異動も、実施する事もある。又お花見や忘年会を行い親睦を深めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談については、電話や直接来所していただいたときにいつでも対応できるようにしている。事前に面接を行い、直接会って話をすることにより、不安な点、わからない点などを説明できる為、信頼関係づくりにもなっている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者が主となり、家族からの申し出をお聞きしている。毎月の支払いの時などなるべくご家族と直接お会いする機会をつくっている。傾聴し、常にご家族の立場で考えるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) とにかくお聞きし、施設で何ができるのかを考え、必要であれば行政や他のサービスにも相談できるように、連絡調整も含めた対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入所前に、事前に来ていただき、見学や体験利用なども行っている。担当者が本人宅に伺い、事前にゆっくり話をさせていただくことでなじみの関係づくりにもなっている。ショートや体験利用についても紹介し、柔軟に対応できることも伝えるようにしている。 (外部評価) 利用者を訪問することで生活環境等を理解することに努めている。家族も一緒に見学してもらって共に食事をし、一か月のお試し期間を過ごすことで雰囲気に慣れ、楽しく過ごせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 基本的に日常生活をともに過ごすなかで、食事作り、洗濯、掃除など協力しあいながら、共に支えあう関係づくりに努めている。昔ながらのその土地での風習（おたのもさん）や切干大根づくり、お祭りにはお寿司づくりなど、ご利用者に指導する立場になっていただく場面もある。 (外部評価) 干し大根や干し柿等、手作りの食材作りを教わったり、調理法を教えてもらったりしている。折り紙や小物づくり、来訪者にプレゼントして喜んでもらっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所時に家族の方に面会や受診などの協力依頼をしている。定期薬の受け取りや、受診、個々の外出（買い物や理美容）については主に家族にて対応していただき、介護の一役割を担っていただくことで、ご利用者に対する共通の認識を持っていただいている。	※	まだまだ施設にまかせっきりのご家族も少なくなく、受身であるご家族も多い。今後、夕涼み会をはじめ行事などでの家族ボランティアの協力も取り入れていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご本人の居室でゆっくり過ごしていただけるよう、面会時に椅子とお茶をお出ししている。職員がお茶を出す時にご家族と日頃の様子やお願いすることなど、話せるきっかけとなっている。ご家族からの様子伺うことも多い。	※	面会のないご家族に対しての働きかけを検討していきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) お盆やお正月など、ご家族が集まるときには帰省のお願いをしている。それ以外にも畑や自宅の手入れに外出される方や地元の敬老会に毎年参加される方もいらっしゃる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事中はテレビを消し、なるべく会話ができるように時間を意識して持つようになっている。職員が会話の橋渡しとなり話題を提供しながら認知症のかたも会話に加われるよう配慮している。季節ごとの行事やクラブ活動、家事をしながらなどさまざまな角度や場面で関われるきっかけを探している。	※	認知症の方同士や症状の軽い方もおり、コミュニケーションについて勉強会などをして理解を深めていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 病院へ入院し亡くなられているケースも多く、その後の関係を継続していくのが難しい。ご家族の事情や希望もあるので、この点に関しては施設独自で積極的には踏み込みにくい面もある。	※	行事へ招待したり、お手紙を送付するなど検討したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の会話や様子を観察することで把握に努めている。不明な点をご家族にお聞きしながら、職員間でも話し合い、利用者本位のサービス提供に努めている。	※	アセスメント様式を作成し、個人の基本的情報の生理をおこなっていききたい。
			(外部評価) 入居時に自宅を訪問し、生活環境を理解しながら家族やケアマネジャー等利用者に関わりのある方とよく話して、できるだけ多くの情報を収集している。	※	日々の生活の中で把握した利用者の情報を、記録に残すことで全職員が共有できるようにしていく取り組みに期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前面接などでもお聞きしているが、個人のプライバシーなどもあり十分踏み込んで聞くことができていない。また、ご家族も把握していない事も多く、十分とはいえない。	※	アセスメントシートを作成し、ケアプランなどに活用できるように整備したい。それとともに、個人情報情報を職員間でどれだけ遵守できるかも検討が必要かと思われる。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人のケース記録に日々の様子を記入したり、朝夕の申し送りにて、職員間での情報を共有する機会を大切にしている。	※	担当者会議にて、本人の状況を報告し、次のケアプランに反映する事でその都度、状況を整理していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 事前にご利用者と話し、要望を聞いたうえで、担当者会議を開き介護計画を作成している。ご本人や家族は話し合いには直接参加できていない。事前の希望調査とプラン作成の承認のときの説明にての対応に止まっている。 (外部評価) 担当者の気づきや評価を踏まえて主任とケアマネジャーがまとめ、ミーティング時に提示し、家族にも確認してもらっている。	※	ご家族との会議開催の日程・時間調整が難しく、今後の課題である。 利用者、家族の意見を大切にしながら、担当者に加えて全職員の気づきを取り入れ、的確で具体的な介護計画をつくることを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 要介護認定の変更や心身における入退院など、ご本人の状況の変化に応じ、その都度担当者会議を開催し新たな介護計画を作成している。 (外部評価) 期間を指定しての見直しは勿論のこと、状況の変化に応じて、対応できる職員が即時見直すようにしている。	※	急な変更の場合は少人数での担当者会にて対応している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の記録ではケアの実践やご利用者の変化や気づきなどを主に記入している。一ヶ月ごとにご利用者の状況をまとめ、記入も行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の状況に合わせた柔軟な対応に努めていきたい。 (外部評価) 墓参りに出かけたり、自宅に泊まってもらったり、家族で食事会をしてもらうなど、利用者の要望に沿えるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 必要に応じて、民生委員の方やボランティアの協力をいただいている。	※	避難訓練などを通じ、日頃より消防や警察などとも連携し協力依頼などをしていきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ホームでの生活支援が中心であるが、介護タクシーを利用される方もいらっしゃる、連絡や情報交換などを密に行っている。地域のケアマネジャーとも訪問調査などの日程調整をはじめ関係作りに努めている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加してござっており、アドバイスや意見をいただいている。その時に各種会合や研修会などの情報を頂く事も多い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医が月2回往診にきているが、本人やご家族の希望にて入所前からのかかりつけ医に診ていただいている方もいる。家族に受診の付き添いや定期薬の受け取りなど協力していただいている。 (外部評価) 家族との交流をできるだけ多くもってほしいという意図から、病院の受診は家族に介助をお願いしている。受診前に日頃の様子を家族にできるだけ詳しく話し、受診結果についても報告をもらっている。	※	年二回の健康診断の実施。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 利用者、個人の主治医に対処方法、指示や助言をしていただいたり、また、市内の認知症専門医を受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の看護師や近隣の医療機関の看護師に支援していただいている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) ご利用者が環境の変化による混乱を防ぐ為に、職員が面会に行ったり、医療機関との連絡調整をはかれるように面会時に様子を伺うなど、早期に退院できるよう情報交換している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 現在、重度化・終末期のご利用者がいないが、病院に入院するケースが多く、その都度ご家族やかかりつけ医と相談し、ご本人によりよい対応を検討している。 (外部評価) 特に取り決めはなく、利用者や家族の要望に応えるようにしている。	※	重度化、終末期のあり方については、医療関係者、看護、介護の体制づくりは勿論の事、利用者・家族を加え、全てのケア関係者が繰り返し話し合い、対応方針を共有していく取り組みが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ご意見を聞きながら、ご利用者が家族が不安にならないよう支援に努めている。しかし、施設での対応もできる限りの対応はさせていただくものの、できないことについては納得していただけるようきちんとした説明も心がけている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ご本人独自の生活が継続されるように、移動の際には必要な生活習慣や生活背景などの情報交換をしている。移動後もわからないことがあれば情報交換できるような関係作りにも努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ケース記録以外の重要書類については事務所にて保管している。言葉かけや対応については、職員同士で日頃よりチェックをし、注意しあうように心がけている。 (外部評価) 記録の保管に関しては細心の注意をしている。居室は利用者個人のプライベート空間と捉えている。利用者の尊厳を損ねることがないように、言葉かけや対応に注意している。	※	研修会や勉強会など今後活用していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 職員側ですべてきめつけず、日々の暮らしの中においてご本人が選べるような言葉掛けをするよう意識して対応している。	※	認知症などで自己決定ができていく方への対応についてはどのようにすれば気持ちを引き出せるのか、検討の必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースや体調に合わせた生活を第一に援助している。食事や入浴などもある程度決められた時間ではあるが、その方に応じて順番をかえたり、時間をずらすなどの配慮を行っている。散歩や趣味活動、就寝時間などはその方に応じて支援している。 (外部評価) 食事の時も職員はゆったりと利用者の側に寄り添っており、利用者のペースを大切に支援に心がけている。利用者それぞれに自分のペースで自由に過ごしていることに違和感はない。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理美容についてはご本人の希望にて、行きつけの美容室へいけるようご家族やお店に手配したり、施設にも来て対応していただけるよう、選択できる環境をつくっている。行事などで外出する時にはお化粧品などの身支度のお手伝いもしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むきや、下ごしらえなどできることを分担して、協力して作るようにしている。作りながら、ご利用者との味見など意見を聞いたりすることも多い。テーブルを拭いたり、お茶を入れたり食事の配膳などの準備や後片付けも協力して行っている。 (外部評価) 食事中も季節・テレビ・献立・食材の話と、尽きることなく会話が弾んでおり、利用者にとって食事が楽しみな様子が見えがえる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 入所時に個人の嗜好などお聞きし、共同生活のうえでできる範囲で楽しんでいただいている。食後のコーヒーなども楽しみにされている方もおり、他のご利用者や職員との団欒に一役買っている場面もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ご本人の意向に合わせた排泄介助を行っている。オムツはなるべく減らすようには支援しているが、それにより日常生活でご本人の負担にならないよう必要に応じて使い分けている。逆に頻回なトイレ誘導がご本人の負担になり、情緒不安定になられるかたもいらっしゃった。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人一人のペースにあわせた入浴を実施している。日曜はお休みしているが皮膚疾患や本人の希望があればいつでも対応できるようにしている。本人の希望もあるが、最低週に三回は入浴支援を行っている。 (外部評価) 毎日の午後、希望に応じて自由に入浴できるようにしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も居室で休息がとれるよう、ご本人のペースに合わせた生活時間を尊重している。職員側も体調などに配慮し、認知症などで判断できない方などには居室で横になるように声をかけたりする配慮も心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事作りや後片付け、洗濯物の取り込みや洗濯物たたみ、畑仕事、草抜き、日常生活においてのそれぞれ得意分野を生かして役割をもっといただいている。 (外部評価) 習字、手芸、畑でのじゃが芋やサツマイモの野菜作りなどができるよう支援している。干し大根や干し柿をたくさん作って酢の物等の料理に使うなど、楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を自己管理されている方もおり、買い物や理美容へも行かれ、自分で支払いをする機会をつくるよう配慮している。	※	ご家族の意向や方針もあり、認知症という兼ね合いもあってどうしてもご本人にお金を持たせるのが抵抗があるご家族も多い。そういうご家族に対するの理解や協力を得る関わりも今後検討していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ご本人の希望や体調を伺い、近所への散歩や畑の手入れなど気軽に戸外にでかけられるような環境にしている。 ご家族との外出・外泊なども臨機応変に対応している。 (外部評価) 周辺に商店などは見当たらないが、梅やイチジクの畑があり、散歩に出かける方もいる。	※	歩いて買い物に出かけられるようなところは見当たらないが、だれにもある故郷のような風景を楽しみに畑の間を散歩しながら、近所の方と会話できるような配慮を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族による外泊外出は柔軟に対応している。ユニットではお花見、小中学校の運動会、ホテルでの食事会、さまざまな角度からの外出の機会を提供するように嗜好を凝らした外出行事を支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自室に電話を引いておられる方もいらっしゃり、必要に応じて携帯電話も許可してる。子供さんや親類の方からの小包やお手紙を楽しみにされ、お礼のお電話のお手伝いなどもしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも面会に来ていただけるようにしている。共用のスペースや自室にお茶を出し、ご家族とのひとときを居心地のよく過ごせるよう職員一同配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は決してしてはならないという意識を徹底している。	※	研修会などに参加しながら、資料など作成し、職員の認識を深めていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけず、自由に行き来できる環境にしている。戸外にも自由に出る事ができる。 (外部評価) 平屋建てで、玄関のみでなく掃き出し窓があちこちにあり、自由に入出入りできる。どこからも見渡せる広い中庭があり、運動も十分できる。安心安全の環境づくりを考えている。	※	鍵をかけてないので、認知症などのご利用者など中心に安全で安心のできる環境を守っていきたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は記録などフロア内で見守りながら取るようにしている。夜間は就寝後2時間毎に巡回している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 薬や刃物類、洗剤・漂白剤などは安全な場所に保管している。必要により針仕事や工作などで使用する場合は、職員が確認・見守りしながら対応している。その際、使用後の返却をきちんと確認している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書などを作成し、常に事故防止に心がけている。定期的に消防訓練をしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急マニュアルに従い消防署の指導を受け、AEDの使用 方法や救急救命の訓練を実施している。	※	定期的に講義を受講しながら、正しい知識を習得し、実践に移せるよう訓練を重ねていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、消防署の指導を受け、夜間を想定した防災訓練を実施している。地域の協力を得た訓練はまだ実施していない。 (外部評価) 利用者にも参加してもらい、消防署の指導による訓練を年2回実施している。消火訓練や救急救命の実習をしているが、地域を巻き込んだ訓練にはなっていない。	※ ※	定期的に地域の方の協力を得た訓練を早期に実施したい。 非常時には近隣住民や自主防災組織の協力がなにより大切になることを認識し、日頃より協力体制を得られるよう働きかけ、具体的な誘導策などを共有しておくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時の説明や介護計画の作成・変更時に家族に起こり得るリスクについて説明し、理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日頃より様子観察を密にし、一人ひとりの変化についてはケース記録に記入し、職員申し送りノートにも記載し、確認後は印を押して情報の共有に努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の指示に従い、服薬表にしたがって間違いのないよう服薬支援をおこなっている。薬がかわった場合には、日誌に記入し、症状変化についても確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘のもたらす症状や影響を理解し、予防のための水分補給や適度な運動の機会を提供している。排便などのチェックも行い、記録している。	※	しっかりしていて自己管理できている方の排便の状況が十分把握できにくい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後に居室や居間で歯磨きを行うよう、声掛けや介助をおこなっている。義歯の洗浄剤を使用した手入れもおこなっている。必要に応じて、歯科受診などの援助も実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は栄養バランスを考え、旬の食材を中心につくっている。食事や入浴後、水分補給の時間に水分をとる機会を多く持ち、水分不足を防ぐよう気を配っている。また、摂取量も記録している。 (外部評価) 一人ひとり記録をとっており、量・バランス共に適切に確保できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防対策マニュアルを作成しており、手洗いやうがい励行、玄関の入り口には消毒液の設置など対策をとっている。外部からの予防対策として家族などへの呼びかけ、資料配布、面会制限などの協力依頼もおこなっている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具などはこまめに洗浄・消毒をおこなっている。食事に関しても常に新鮮なもの、安心なものにこだわって使用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ホーム前の広場にベンチを備え、憩いのスペースをつくっている。花壇に季節折々の花を植えて手入れをおこない、心癒える雰囲気作りに努めている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関の靴箱上には掲示板をもうけ、行事の写真や利用者の作品を展示している。居間は吹き抜けになっており、自然光を取り入れた開放的なつくりになっている。台所もオープンな感じで利用者も使いやすい設計になっている。 (外部評価) 十分な広さを有している。台所はオープン対面式で複数で洗いや調理ができるよう工夫している。浴室・トイレは清潔で気持ちよく使用できる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが広く、畳のコーナーもあり、話し相手と自由に過ごせる場所を設けている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室にはなじみの物品を持ち込んで、自分の部屋らしく工夫しているが、全般的に使い慣れた品物の持ち込みは少ない。 (外部評価) 利用者個々に自分好みに整えられており、ちょっとした小物や装飾でもその人柄が表れる個性的な居心地の良い居室となっている。各居室にクロックがあるのですっきりと広く使える。	※	昔のアルバムやなじみの物を持ち込むための家族への協力依頼を検討したい。自分の部屋として落ち着ける場所づくりの支援をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) においや空気のよどみがないよう、こまめに窓を開け換気している。床暖房し、冬は加湿器を備え、乾燥対策も実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレ・浴室・階段に手すりや滑り止めを設置している。物干しも利用者に合わせた高さになっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 手洗い・浴室をよくわかるように大きく表示している。居室のドアには大きい字で氏名と誕生花の写真が目の高さにあわせて表示している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外周りにはブランターなどを置き、楽しめるスペースづくりをしている。敷地内にお地藏さんもあり、散歩中にお参りできるようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々のケアのなかで、利用者第一・中心のケアを心掛け、会話やコミュニケーションの中から、思いを引き出す努力をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	毎食後、すぐに後片付けに取り掛からず、利用者と職員がお茶を飲みながら、団欒する時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	時間や行動に制限を設けず、自由に過ごしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の対応により利用者の笑顔を引き出せるよう支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の要望を中心に外出できるよう支援しているが、認知症や身体機能の状態により付き添いや車が必要な場合も多い。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な往診や緊急の受診、日々のバイタルチェックなどを行っており、安心されていると思うが、高齢ということもあり不安な面もぬぐいきれない部分もうかがえる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家族の協力などもいただき、施設でできる範囲の柔軟な対応をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	毎月の支払い時、面会時、運営推進会議の時などお声をかけ、ご意見や家族の現況などもお聞きしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	近所の方などが旬の野菜を届けに来てくださる。家族も面会時、いっしょに食事をとっていただくこともある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	主に家族を中心に会議には参加していただいているが、地元の方も多く、利用者家族の立場であったり、近隣住民の立場として毎回いろいろな角度からアドバイスや情報交換を行なう事で理解を深め合っている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員ひとり一人の体や家庭の事情をふまえ、柔軟に勤務体系にも配慮し、個人個人が働きやすい職場環境となっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自宅へ帰りたいと思われている方が多いと思われるが、施設内での生活においてはすでに自分のペースを作られている方も多く、表情も豊かなので、これによしと満足せず喜ばれるケアの提供を継続していきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	苦情はほとんど出ていないが、満足＝施設にまかせっきりにならないよう、ご家族に安心していただけるサービスを提供していきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

全ての利用者が出来る訳ではないが、毎日、〇〇当番を決め利用者に役割を持っていただき生きがいを見つけていただける様に努めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	有限会社 弘祐会 グループホームこうゆう庵
(ユニット名)	こうゆう庵Ⅱ
記入者(管理者)	
氏名	天崎るみ
評価完了日	平成 19 年 11 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 前回の外部評価のアドバイスを基に、管理者が中心となり職員間で話し合い、よりわかりやすい明確な理念を再検討した。	※	職員間で再確認できる機会をつくっていききたい。
			(外部評価) 安心して生きがいを持って生活できるよう、まごころのこもった質の高いサービスを提供していくという理念を掲げているが、地域との関係づくりに関しての取り組みを反映したものにはなっていない。	※	職員全員で話し合いを重ね、地域や利用者のニーズを汲み上げながら、住み慣れた地域での安心した暮らしを支えていくことを念頭において理念を作り上げることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員一人一人が理念についてかみくだいて理解しているが、個人の認識については差があり、十分とはいえない。日々のケアの中で具体的にいかせるよう、管理者が全職員に話している。	※	新しい職員についても資料として配布し、職員全体で忘れないようにする取り組みを考えていきたい、
			(外部評価) 常に理念を思い起こしながら、日々の生活の中で一つひとつ理念が活かしているか振り返りを大切にしながら取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて、施設理念を資料の一部として配布している。会議の冒頭の挨拶でも管理者より挨拶の中でその都度説明としておりこんでいる。面会のご家族にも目にはいるように、各ユニットに掲示してある。	※	地域の方にも理念が浸透するような方法を検討したい。ホーム便りの配布も検討したが、個人情報の兼ね合いもあり、保留となっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 夕涼み会など大きな行事をきっかけに外部や近隣の方に来ていただける機会をつくるように努力している。利用者家族なども近隣の方が多く、面会に寄ってくださる。近隣からは野菜などの差し入れなどで気安く立ち寄ってくださっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運営推進会議にも来ていただき、意見交換する機会が増えたように思う。地域の活動にも参加し、地方祭などではだんじりのお接待でおでんや飲み物を提供し、休憩の場としても利用していただいている。 (外部評価) 地域に福祉関係の施設が少ないため、地域からは好意的に受け入れられている。夏の盆踊り会には地区会や婦人会、子ども会にも参加してもらい、地域の行事のようになっている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 婦人会・老人会・民生委員などが訪れた際には、認知症ケアの対応を話し合ったり、ボランティアや小学生の見学なども受け入れている。今年では地域の保育園の運動会のお花作りをご利用者が担当し、よろこばれたので継続していきたい。	※	地域の情報交換を密にしながら、施設全体で実施できる事を職員全体で話し合いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員一人一人が自己評価に取り組み、小さなことからできる範囲で改善に取り組んでいる。評価時には何か取り組める事がないかその都度検討している。 (外部評価) 言葉が難しかったり、項目の意味がくみ取り難いものもあるが、全員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。改善計画シートは作成していないが、できる項目から具体的に改善に取り組んでいる。	※	職員個々の取り組みを、改善に関するシートを作成することでまとめ、ホーム全体としてケアの質の向上に繋げていくことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で、夕涼み会の反省や行事の報告など、ご家族などの声もお聞きし、サービス面における評価を行なっている。来年度に向けての行事予定を決めたり、日常の食事の献立おかずなどのヒントもいただくこともあり、サービス向上に一役かっている。		
			(外部評価) 行事の計画や報告を中心に話し合いを行っている。様々な立場の方に参加して欲しいと努力しているが、参加者が少なくなっている。	※	地域生活をさらに豊かにするために、地区長・民生委員・婦人会等、地域のキーパーソンにも参加してもらうよう更なる工夫が求められる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 不明な点やわからないときはその都度行政に相談し、助言をいただいている。		
			(外部評価) 介護保険関係の窓口とは常に連携している。介護相談員の来訪が毎月あるので、相談窓口になってもらっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度に関して職員は学習を行っており、具体的に制度の活用の申し立てがあった場合には、担当の弁護士と相談し、活用推進に努める体制をとっている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、虐待については決して起こってはいけないように職員間にて注意しあっている。管理者においても同一敷地内に居住していることもあり、夜勤などについても確認できる体制にある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者もしくは主任が担当となり、ゆっくり時間をかけて説明し、不安な面などが無いか再度お聞きするようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者や職員が利用者と日頃から、挨拶などを中心にコミュニケーションをとることにより、気軽に声をかけ相談できやすい雰囲気づくりに努めている。また、アンケートの実施、相談箱の設置などご利用者の声も引き出す機会も設けている。	※	一月より介護相談員の方が行政より訪問予定である。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 健康状態や精神状態に異常や変化が見られる場合は、その都度家族に連絡をとり、報告するようにしている。月に1回、日常生活報告書、年4回ホームだよりを発行し、写真を多く取り入れることにより一目で暮らしぶりがわかるような工夫もおこなっている。 (外部評価) 最低でも月1回は話し合いの機会をもっており、気兼ねなく話せる雰囲気づくりに努めている。ホーム便りのみでなく、担当者からの手紙も月1回は出して報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事への参加、運営推進会議への参加の時にご家族との意見交換を行なっている。特に5月に行なっているバーベキューでは食事をしながら穏やかな雰囲気での交流の機会となっている。玄関にも相談箱を置いて、ご家族の意見をいただけるようにしている。 (外部評価) 家族にも運営推進会議に参加してもらい、意見を出してもらっている。また、年1回アンケートを実施して意見を聞いている。	※	アンケート調査を12月に実施する予定。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 利用者の受け入れ、職員試用、ケア面などについて職員の意見を十分聞き取り反映させている。管理者は職員と日常的に話す機会を多く持つように努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の生活に合わせ、支障のないよう勤務ローテーションの調整に努めている。	※	職員の急な離職などによる対応・補充が難しい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) (外部評価) 異動はほとんどないが、ユニット間のバランスをとる為の異動等は稀にあり、その際は利用者にも何度も話して納得してもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の希望があれば、自由に研修を受ける事ができる。初任者研修やフォローアップ研修など、計画に従った研修への参加は無い。また研修後の報告書を作成し、ケアにいかす体制が不十分である。 (外部評価) 福祉の専門職として勉強してきた職員は少なく、県在宅介護研修センターなどの研修を受けることで育ってきている。	※ ※	研修計画を立て、全職員が研修に参加し、スキルアップできるような体制づくりを行いたい。研修結果についてもケアにいかせるように検討したい。 年齢、経験など様々な職員に適した研修を計画的に受講できるように配慮し、資格取得に向けた援助にも取り組みを期待する。全職員で認知症ケアの学習も重ね、根本的な理解を深めることでレベルアップにつなげることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は行っているが、人材不足のため勉強会などの参加は不十分である。 (外部評価) 管理者の個人的つながりを基に、交流により具体的な情報交換をすることで、サービスの質の向上につなげている。	※	人材を充分確保できるよう働きかけ、勉強会などに参加できるようにしたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者を含め、職員がお互い話し合うことでストレス解消に努めている。改善のためユニット間での異動も、実施する事もある。又お花見や忘年会を行い親睦を深めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談については、電話や直接来所していただいたときにいつでも対応できるようにしている。事前に面接を行い、直接会って話をすることにより、不安な点、わからない点などを説明できる為、信頼関係づくりにもなっている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者が主となり、家族からの申し出をお聞きしている。毎月の支払いの時などなるべくご家族と直接お会いする機会をつくっている。傾聴し、常にご家族の立場で考えるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) とにかくお聞きし、施設で何ができるのかを考え、必要であれば行政や他のサービスにも相談できるように、連絡調整も含めた対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入所前に、事前に来ていただき、見学や体験利用なども行っている。担当者が本人宅に伺い、事前にゆっくり話をさせていただくことでなじみの関係づくりにもなっている。ショートや体験利用についても紹介し、柔軟に対応できることも伝えるようにしている。 (外部評価) 利用者を訪問することで生活環境等を理解することに努めている。家族も一緒に見学してもらって共に食事をし、一か月のお試し期間を過ごすことで雰囲気に慣れ、楽しく過ごせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 基本的に日常生活をともに過ごすなかで、食事作り、洗濯、掃除など協力しあいながら、共に支えあう関係づくりに努めている。昔ながらのその土地での風習（おたのもさん）や切干大根づくり、お祭りにはお寿司づくりなど、ご利用者に指導する立場になっていただく場面もある。 (外部評価) 干し大根や干し柿等、手作りの食材作りを教わったり、調理法を教えてもらったりしている。折り紙や小物をつくり、来訪者にプレゼントして喜んでもらっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所時に家族の方に面会や受診などの協力依頼をしている。定期薬の受け取りや、受診、個々の外出（買い物や理美容）については主に家族にて対応していただき、介護の一役割を担っていただくことで、ご利用者に対する共通の認識を持っていただいている。	※	まだまだ施設にまかせっきりのご家族も少なくなく、受身であるご家族も多い。今後、夕涼み会をはじめ行事などでの家族ボランティアの協力も取り入れていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご本人の居室でゆっくり過ごしていただけるよう、面会時に椅子とお茶をお出ししている。職員がお茶を出す時にご家族と日頃の様子やお願いすることなど、話せるきっかけとなっている。ご家族からの様子伺うことも多い。	※	面会のないご家族に対しての働きかけを検討していきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) お盆やお正月など、ご家族が集まる時には帰省の願いをしている。それ以外にも畑や自宅の手入れに外出される方や地元の敬老会に毎年参加される方もいらっしゃる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事中はテレビを消し、なるべく会話ができるような時間を意識して持つようにしている。職員が会話の橋渡しとなり話題を提供しながら認知症のかたも会話に加われるよう配慮している。季節ごとの行事やクラブ活動、家事をしながらなどさまざまな角度や場面で関われるきっかけを探している。	※	認知症の方同士や症状の軽い方もおり、コミュニケーションについて勉強会などをして理解を深めていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 病院へ入院し亡くなられているケースも多く、その後の関係を継続していくのが難しい。ご家族の事情や希望もあるので、この点に関しては施設独自で積極的には踏み込みにくい面もある。	※	行事へ招待したり、お手紙を送付するなど検討したい。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の会話や様子を観察することで把握に努めている。不明な点をご家族にお聞きしながら、職員間でも話し合い、利用者本位のサービス提供に努めている。	※	アセスメント様式を作成し、個人の基本的情報の生理をおこなっていききたい。
			(外部評価) 入居時に自宅を訪問し、生活環境を理解しながら家族やケアマネジャー等利用者に関わりのある方とよく話し、できるだけ多くの情報を収集している。	※	日々の生活の中で把握した利用者の情報を、記録に残すことで全職員が共有できるようにしていく取り組みに期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前面接などでもお聞きしているが、個人のプライバシーなどもあり十分踏み込んで聞くことができていない。また、ご家族も把握していない事も多く、十分とはいえない。	※	アセスメントシートを作成し、ケアプランなどに活用できるように整備したい。それとともに、個人情報職員間でどれだけ遵守できるかも検討が必要かと思われる。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人のケース記録に日々の様子を記入したり、朝夕の申し送りにて、職員間での情報を共有する機会を大切にしている。	※	担当者会議にて、本人の状況を報告し、次のケアプランに反映する事でその都度、状況を整理していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 事前にご利用者と話し、要望を聞いたうえで、担当者会議を開き介護計画を作成している。ご本人や家族は話し合いには直接参加できていない。事前の希望調査とプラン作成の承認のときの説明にての対応に止まっている。	※	ご家族との会議開催の日程・時間調整が難しく、今後の課題である。
			(外部評価) 担当者の気づきや評価を踏まえて主任とケアマネジャーがまとめ、ミーティング時に提示し、家族にも確認してもらっている。	※	利用者、家族の意見を大切にしながら、担当者に加えて全職員の気づきを取り入れ、的確で具体的な介護計画をつくることを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 要介護認定の変更や心身における入退院など、ご本人の状況の変化に応じ、その都度担当者会議を開催し新たな介護計画を作成している。	※	急な変更の場合は少人数での担当者会にて対応している。
			(外部評価) 期間を指定しての見直しは勿論のこと、状況の変化に応じて、対応できる職員が即時見直すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の記録ではケアの実践やご利用者の変化や気づきなどを主に記入している。一ヶ月ごとにご利用者の状況をまとめ、記入も行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の状況に合わせた柔軟な対応に努めていきたい。 (外部評価) 墓参りに出かけたり、自宅に泊まってもらったり、家族で食事会をしてもらうなど、利用者の要望に沿えるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 必要に応じて、民生委員の方やボランティアの協力をいただいている。	※	避難訓練などを通じ、日頃より消防や警察などとも連携し協力依頼などをしていきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ホームでの生活支援が中心であるが、介護タクシーを利用される方もいらっしゃる、連絡や情報交換などを密に行っている。地域のケアマネジャーとも訪問調査などの日程調整をはじめ関係作りに努めている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加して下さっており、アドバイスや意見をいただいている。その時に各種会合や研修会などの情報を頂く事も多い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医が月2回往診にきているが、本人やご家族の希望にて入所前からのかかりつけ医に診ていただいている方もいる。家族に受診の付き添いや定期薬の受け取りなど協力していただいている。 (外部評価) 家族との交流をできるだけ多くもってほしいという意図から、病院の受診は家族に介助をお願いしている。受診前に日頃の様子を家族にできるだけ詳しく話し、受診結果についても報告をもらっている。	※	年二回の健康診断の実施。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 利用者、個人の主治医に対処方法、指示や助言をしていただいたり、また、市内の認知症専門医を受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の看護師や近隣の医療機関の看護師に支援していただいている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) ご利用者が環境の変化による混乱を防ぐ為に、職員が面会に行ったり、医療機関との連絡調整をはかれるように面会時に様子を伺うなど、早期に退院できるよう情報交換している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 現在、重度化・終末期のご利用者がないが、病院に入院するケースが多く、その都度ご家族やかかりつけ医と相談し、ご本人によりよい対応を検討している。 (外部評価) 特に取り決めはなく、利用者や家族の要望に応えるようにしている。	※	重度化、終末期のあり方については、医療関係者、看護、介護の体制づくりは勿論の事、利用者・家族を加え、全てのケア関係者が繰り返し話し合い、対応方針を共有していく取り組みが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ご意見を聞きながら、ご利用者が家族が不安にならないよう支援に努めている。しかし、施設での対応もできる限りの対応はさせていただくものの、できないことについては納得していただけるようきちんとした説明も心がけている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ご本人独自の生活が継続されるように、移動の際には必要な生活習慣や生活背景などの情報交換をしている。移動後もわからないことがあれば情報交換できるような関係作りにも努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ケース記録以外の重要書類については事務所にて保管している。言葉かけや対応については、職員同士で日頃よりチェックをし、注意しあうように心がけている。 (外部評価) 記録の保管に関しては細心の注意をしている。居室は利用者個人のプライベート空間と捉えている。利用者の尊厳を損ねることがないように、言葉かけや対応に注意している。	※	研修会や勉強会など今後活用していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 職員側ですべてきめつけず、日々の暮らしの中においてご本人が選べるような言葉掛けをするよう意識して対応している。	※	認知症などで自己決定ができていく方への対応についてはどのようにすれば気持ちを引き出せるのか、検討の必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースや体調に合わせた生活を第一に援助している。食事や入浴などもある程度決められた時間ではあるが、その方に応じて順番をかえたり、時間をずらすなどの配慮を行っている。散歩や趣味活動、就寝時間などはその方に応じて支援している。 (外部評価) 食事の時も職員はゆったりと利用者の側に寄り添っており、利用者のペースを大切に支援に心がけている。利用者それぞれに自分のペースで自由に過ごしていることに違和感はない。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理美容についてはご本人の希望にて、行きつけの美容室へいけるようご家族やお店に手配したり、施設にも来て対応していただけるよう、選択できる環境をつくっている。行事などで外出する時にはお化粧品などの身支度のお手伝いもしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むきや、下ごしらえなどできることを分担して、協力して作るようにしている。作りながら、ご利用者との味見など意見を聞いたりすることも多い。テーブルを拭いたり、お茶を入れたり食事の配膳などの準備や後片付けも協力して行っている。 (外部評価) 食事中も季節・テレビ・献立・食材の話と、尽きることなく会話が弾んでおり、利用者にとって食事が楽しみな様子がうかがえる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 入所時に個人の嗜好などお聞きし、共同生活のうえでできる範囲で楽しんでいただいている。食後のコーヒーなども楽しみにされている方もおり、他のご利用者や職員との団欒に一役買っている場面もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ご本人の意向に合わせた排泄介助を行っている。オムツはなるべく減らすようには支援しているが、それにより日常生活でご本人の負担にならないよう必要に応じて使い分けている。逆に頻回なトイレ誘導がご本人の負担になり、情緒不安定になられるかたもいらっした。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人一人のペースにあわせた入浴を実施している。日曜はお休みしているが皮膚疾患や本人の希望があればいつでも対応できるようにしている。本人の希望もあるが、最低週に三回は入浴支援を行っている。 (外部評価) 毎日の午後、希望に応じて自由に入浴できるようにしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も居室で休息がとれるよう、ご本人のペースに合わせた生活時間を尊重している。職員側も体調などに配慮し、認知症などで判断できない方などには居室で横になるように声をかけたりする配慮も心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事作りや後片付け、洗濯物の取り込みや洗濯物たたみ、畑仕事、草抜き、日常生活においてのそれぞれ得意分野を生かして役割をもっている。 (外部評価) 習字、手芸、畑でのじゃが芋やサツマイモの野菜作りなどができるよう支援している。干し大根や干し柿をたくさん作って酢の物等の料理に使うなど、楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を自己管理されている方もおり、買い物や理美容へも行かれ、自分で支払いをする機会をつくるよう配慮している。	※	ご家族の意向や方針もあり、認知症という兼ね合いもあってどうしてもご本人にお金を持たせるのが抵抗があるご家族も多い。そういうご家族に対する理解や協力を得る関わりも今後検討していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ご本人の希望や体調を伺い、近所への散歩や畑の手入れなど気軽に戸外にでかけられるような環境にしている。 ご家族との外出・外泊なども臨機応変に対応している。 (外部評価) 周辺に商店などは見当たらないが、梅やイチジクの畑があり、散歩に出かける方もいる。	※	歩いて買い物に出かけられるようなところは見当たらないが、だれにもある故郷のような風景を楽しみに畑の間を散歩しながら、近所の方と会話できるような配慮を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族による外泊外出は柔軟に対応している。ユニットではお花見、小中学校の運動会、ホテルでの食事会、さまざまな角度からの外出の機会を提供するように嗜好を凝らした外出行事を支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自室に電話を引いておられる方もいらっしゃる、必要に応じて携帯電話も許可して。子供さんや親類の方からの小包やお手紙を楽しみにされ、お礼のお電話のお手伝いなどもしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも面会に来ていただけるようにしている。共用のスペースや自室にお茶を出し、ご家族とのひとときを居心地のよく過ごせるよう職員一同配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は決してしてはならないという意識を徹底している。	※	研修会などに参加しながら、資料など作成し、職員の認識を深めていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけず、自由に行き来できる環境にしている。戸外にも自由に出る事ができる。 (外部評価) 平屋建てで、玄関のみでなく掃き出し窓があちこちにあり、自由に入出入りできる。どこからも見渡せる広い中庭があり、運動も十分できる。安心安全の環境づくりを考えている。	※	鍵をかけてないので、認知症などのご利用者など中心に安全で安心のできる環境を守っていきたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は記録などフロア内で見守りながら取るようにしている。夜間は就寝後2時間毎に巡回している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 薬や刃物類、洗剤・漂白剤などは安全な場所に保管している。必要により針仕事や工作などで使用する場合は、職員が確認・見守りしながら対応している。その際、使用後の返却をきちんと確認している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書などを作成し、常に事故防止に心がけている。定期的に消防訓練をしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急マニュアルに従い消防署の指導を受け、AEDの使用 方法や救急救命の訓練を実施している。	※	定期的に講義を受講しながら、正しい知識を習得し、実践に移せるよう訓練を重ねていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、消防署の指導を受け、夜間を想定した防災訓練を実施している。地域の協力を得た訓練はまだ実施していない。	※	定期的に地域の方の協力を得た訓練を早期に実施したい。
			(外部評価) 利用者にも参加してもらい、消防署の指導による訓練を年2回実施している。消火訓練や救急救命の実習をしているが、地域を巻き込んだ訓練にはなっていない。	※	非常時には近隣住民や自主防災組織の協力がなにより大切になることを認識し、日頃より協力体制を得られるよう働きかけ、具体的な誘導策などを共有しておくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時の説明や介護計画の作成・変更時に家族に起こり得るリスクについて説明し、理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日頃より様子観察を密にし、一人ひとりの変化についてはケース記録に記入し、職員申し送りノートにも記載し、確認後は印を押して情報の共有に努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の指示に従い、服薬表にしたがって間違いのないよう服薬支援をおこなっている。薬がかかった場合には、日誌に記入し、症状変化についても確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘のもたらす症状や影響を理解し、予防のための水分補給や適度な運動の機会を提供している。排便などのチェックも行い、記録している。	※	しっかりしていて自己管理できている方の排便の状況が十分把握できにくい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後に居室や居間で歯磨きを行うよう、声掛けや介助をおこなっている。義歯の洗浄剤を使用した手入れもおこなっている。必要に応じて、歯科受診などの援助も実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は栄養バランスを考え、旬の食材を中心につくっている。食事や入浴後、水分補給の時間に水分をとる機会を多く持ち、水分不足を防ぐよう気を配っている。また、摂取量も記録している。 (外部評価) 一人ひとり記録をとっており、量・バランス共に適切に確保できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防対策マニュアルを作成しており、手洗いやうがい、励行、玄関の入り口には消毒液の設置など対策をとっている。外部からの予防対策として家族などへの呼びかけ、資料配布、面会制限などの協力依頼もおこなっている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具などはこまめに洗浄・消毒をおこなっている。食事に関しても常に新鮮なもの、安心なものにこだわって使用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ホーム前の広場にベンチを備え、憩いのスペースをつくっている。花壇に季節折々の花を植えて手入れをおこない、心癒える雰囲気作りに努めている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関の靴箱上には掲示板をもうけ、行事の写真や利用者の作品を展示している。居間は吹き抜けになっており、自然光を取り入れた開放的なつくりになっている。台所もオープンな感じで利用者も使いやすい設計になっている。 <hr/> (外部評価) 十分な広さを有している。台所はオープン対面式で複数で洗い物や調理ができるよう工夫している。浴室・トイレは清潔で気持ちよく使用できる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが広く、畳のコーナーもあり、話し相手と自由に過ごせる場所を設けている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室にはなじみの物品を持ち込んで、自分の部屋らしく工夫しているが、全般的に使い慣れた品物の持ち込みは少ない。 <hr/> (外部評価) 利用者個々に自分好みに整えられており、ちょっとした小物や装飾でもその人柄が表れる個性的な居心地の良い居室となっている。各居室にクロークがあるのですっきりと広く使える。	※	昔のアルバムやなじみの物を持ち込むための家族への協力依頼を検討したい。自分の部屋として落ち着ける場所づくりの支援をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) においや空気の上よどみがないよう、こまめに窓を開け換気している。床暖房し、冬は加湿器を備え、乾燥対策も実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレ・浴室・階段に手すりや滑り止めを設置している。物干しも利用者に合わせた高さになっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 手洗い・浴室をよくわかるように大きく表示している。居室のドアには大きい字で氏名と誕生花の写真が目の高さにあわせて表示している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやバルコニーを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外周りにはプランターなどを置き、楽しめるスペースづくりをしている。敷地内にお地藏さんもあり、散歩中にお参りできるようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々のケアのなかで、利用者第一・中心のケアを心掛け、会話やコミュニケーションの中から、思いを引き出す努力をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	毎食後、すぐに後片付けに取り掛からず、利用者と職員がお茶を飲みながら、団欒する時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	時間や行動に制限を設けず、自由に過ごしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の対応により利用者の笑顔を引き出せるよう支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の要望を中心に外出できるよう支援しているが、認知症や身体機能の状態により付き添いや車が必要な場合も多い。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な往診や緊急の受診、日々のバイタルチェックなどを行っており、安心されていると思うが、高齢ということもあり不安な面もぬぐいきれない部分もうかがえる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家族の協力などもいただき、施設でできる範囲の柔軟な対応をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	毎月の支払い時、面会時、運営推進会議の時などお声をかけ、ご意見や家族の現況などもお聞きしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	近所の方などが旬の野菜を届けに来てくださる。家族も面会時、いっしょに食事をとっていただくこともある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	主に家族を中心に会議には参加していただいているが、地元の方も多く、利用者家族の立場であったり、近隣住民の立場として毎回いろいろな角度からアドバイスや情報交換を行なう事で理解を深め合っている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員ひとり一人の体や家庭の事情をふまえ、柔軟に勤務体系にも配慮し、個人個人が働きやすい職場環境となっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自宅へ帰りたいと思われている方が多いと思われるが、施設内での生活においてはすでに自分のペースを作られている方も多く、表情も豊かなので、これによしと満足せず喜ばれるケアの提供を継続していきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	苦情はほとんど出ていないが、満足＝施設にまかせっきりにならないよう、ご家族に安心していただけるサービスを提供していきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

全ての利用者が出来る訳ではないが、小物作りをし、ご家族、ボランティア、見学者など施設に来て下さった方々に自分たちが作った小物を自由に持ち帰って頂くことにより、地域の方にも喜ばれ、利用者地域の方とのつながりが持てるように努めている。